

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

グンゼ株式会社（証券コード:3002）

【据置】

| | |
|---------|-----|
| 長期発行体格付 | A |
| 格付の見通し | 安定的 |
| 国内CP格付 | J-1 |

■格付事由

- インナーウェアの国内大手メーカー。機能ソリューション事業（プラスチックフィルムやエンジニアリングプラスチック、電子部品、メディカルなど）、アパレル事業（インナーウェアやレグウェアなど）、ライフクリエイト事業（工場跡地を活用したショッピングセンター運営など）を手掛ける。中期経営計画（23/3期～25/3期）では、新たな価値の創出を基本方針の1つとして掲げ、新規事業の創出と既存事業の成長、サステナビリティを追求した新商品・新サービスの提供などに取り組んでいる。
- 業績は底堅く推移している。アパレル事業ではレグウェアの需要回復の遅れや原材料価格高騰などの影響を受けており、厳しい事業環境が続いている。一方、機能ソリューション事業の業績は堅調に推移しており、アパレル事業の落ち込みをカバーする構造となっている。機能ソリューション事業は、従前は景気変動の影響を受けやすかったが、エンジニアリングプラスチック成長分野の需要取り込みやメディカルの伸長などで安定感が増している。主力製品の市場地位や競争力などの事業基盤、良好な財務内容にも変化はない。以上を踏まえ、格付を据え置き、見通しは安定的とした。
- 23/3期会社計画では営業利益60億円（前期比23.0%増）と増益を予想する。アパレル事業では赤字が継続するとみられるが、機能ソリューション事業の主力製品の好調継続に加え、不採算事業の譲渡などで増益となる見通し。また、ライフクリエイト事業においてもショッピングセンターやスポーツクラブの集客は持ち直してきており、業績を下支えするとみられる。原材料価格の高騰による利益の下押し圧力が強まっているものの、収益源の分散効果などにより、当面も安定的に利益を確保していけると考えられる。
- 23/3期第1四半期末の自己資本比率は72.1%（22/3期末71.4%）と良好な水準を維持している。中期経営計画における設備投資計画は332億円（前3カ年実績192億円）。プラスチックフィルム事業の基幹工場（滋賀県守山市）のサーキュラーファクトリー化の他、エンプラ、メディカルにおける新規設備や能力増強投資など、高水準の設備投資が計画されている。また、M&Aも機動的に行う方針であり、追加的な資金負担が生じる局面も想定される。ただ、自己資本比率60～70%を維持する方針であるなど、財務運営方針は堅実なことから、現状の財務基盤が大きく崩れる懸念は小さい。

（担当）藤田 剛志・金井 舞

■格付対象

発行体：グンゼ株式会社

【据置】

| 対象 | 格付 | 見通し |
|---------|----|-----|
| 長期発行体格付 | A | 安定的 |

| 対象 | 発行限度額 | 格付 |
|------------|-------|-----|
| コマーシャルペーパー | 300億円 | J-1 |

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2022年10月14日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：窪田 幹也
主任格付アナリスト：藤田 剛志
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) グンゼ株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会が定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル